

NEXUS

2017
No.663

3



【知事を囲む懇談会にて】

(H29.2.13 於 盛岡市ホテル東日本)

CONTENTS

- 01 ●Opinion
「震災から6年、第3期復興実施計画 初年度の取組み」
岩手県復興局 局長 木村 卓也 氏
- 02~13 ●主要記事
- 02~07 知事を囲む懇談会
- 08 新設立組合のご紹介
- 09 組合運営基礎研修会、組合決算・税務講習会、自治監査講習会開催
スタンプ・ポイントカード研修会開催
- 10 若手経営者連携交流フォーラム開催
じのもの×スイーツ逸品コンテスト開催
- 11 いわてで働こう推進協議会 平成29年度の取組み
- 12 経済産業省創設「おもてなし規格認証2017」スタート!

- 13 (株)アイオー精密(花巻市)第50回グッドカンパニー大賞受賞
平成29年度活路開拓調査事業公募
- 14~15 ●岩手県内中小企業概況(1月)
- 16 ●中央会Information
中央会通常総会、第69回全国大会、新入職員紹介、2月の中央会

岩手県中小企業団体中央会

<http://www.ginga.or.jp/>



「震災から6年、

第3期復興実施計画初年度の取組み」

岩手県復興局

局長 木村 卓也



東日本大震災津波の発災から6年が経ちました。

平成26年度から28年度の第2期復興実施計画期間である本格復興期間においては、災害廃棄物処理分等を除く実質的な事業費ベースで、第1期の基盤復興期間を上回る予算規模で事業を推進し、復興道路や湾口防波堤、海岸保全施設の整備などを進めました。

また、基盤復興を土台とし、地域の社会経済活動を支える復興まちづくり、被災者の生活の安定と住宅再建、地域産業の再生に取り組み、この間に被災事業所の約8割が営業を再開し、商店街の再建が本格化しています。

一方、今なお1万3千人以上の方々が応急仮設住宅等での生活を余儀なくされています。地域コミュニティの再生・活性化や、販路回復と担い手不足など復興の状況に応じた課題も生じています。被災者イコール復興者、一人ひとりに寄り添った支援を進めていかなければなりません。

「なりわいの再生」における今後の復興施策ですが、被災地域の経済を支える中小企業や商業機能の再生・復興に向け、引き続き、事業再開や仮設店舗から本設店舗への移行を支援するほか、復旧後の持続的な発展に向け、フォローアップの強化や起業、第二創業等の支援に取り組みます。

また、港湾の利活用を促進するため、釜石港におけるコンテナ取扱量の増加に対応しガントリークレーンの整備を進め、宮古・室蘭間のフェリー定期航路の開設に併せ、フェリーターミナルなど関連施設を整備します。

観光については、世界遺産「橋野鉄鉱山」をはじめとする観光資源を生かした誘客促進や、外航クルーズ船の誘致に向けた調査・検討を行います。また、再認定審査を予定している三陸ジオパークは、世界ジオパーク認定も視野に来訪者の受入態勢の強化を進めます。

さらに、高田松原等の砂浜再生や、「三陸DMOセンター」と連携した観光資源の更なる磨き上げに取り組みます。

水産業については、被災施設の早期復旧や漁港の耐震・耐津波強化と併せ、漁業収入の確保・増大のための新たな生産体制の構築や、担い手の確保・育成に取り組むほか、県産水産物の競争力・販売力を強化するため、高度な衛生品質管理体制の構築やカイゼンの導入、商品開発から販路開拓まで一体的な支援を行います。

また、原木しいたけの産地再生を図るため、栽培管理技術の徹底や原木の安定供給、価格高騰対策に取り組むほか、首都圏でのフェア開催や効果的な広報展開により、安全・安心で、おいしい県産食材の魅力を発信します。

平成29年度は、第3期復興実施計画の初年度となり、安全、暮らし、なりわいの各分野において、復興事業の総仕上げを視野に復興の先も見据えた地域振興にも取り組みながら、復興を推進していく重要な年です。皆様の参画もいただきながら、「いのちを守り 海と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の創造」を目指して、「オール岩手の力」と様々な「つながりの力」を結集し、全ての県民の皆様が希望を帯びて復興を進めていきましょう。



ものづくり補助金を活用した生産性・付加価値向上を語る

2月13日(月)、盛岡市のホテル東日本において「知事を囲む懇談会」を開催した。今年度は「生産性・付加価値向上を目指す県内中小企業の取組と展望」をテーマに、本会が地域事務局を務める「ものづくり・商業・サービス業補助金」を活用するなどして、生産性・付加価値向上等に取り組んでいる県内中小企業と県当局の意見交換を行った。以下、本稿では懇談会の概要を紹介する。

◆出席者職氏名（敬称略）

岩手県出席者	
達 増 拓 也	岩手県知事
菊 池 哲	〃 商工労働観光部長
高 橋 毅	〃 経営支援課 総括課長
瀬 川 浩 昭	〃 ものづくり自動車産業振興室 自動車産業振興課長
発 表 者	
植 田 一 丸	(株)エヌエルフォーティ 代表取締役
植 田 健 太 郎	〃 常務取締役
瀬 戸 山 光 宏	(株)ナレロー 代表取締役社長
千 葉 ゆ かり	〃 専務取締役
藤 本 泰 博	竹内真空被膜(株) 専務取締役 工場長
三 浦 修	(株)ワイ・デー・ケー 東北工場 工場長
谷 澤 正 春	〃 生産技術部 部長
中央会出席者	
谷 村 久 興	岩手県中小企業団体中央会 会長
齊 藤 俊 明	〃 副会長
平 野 喜 嗣	〃 副会長
小 山 田 周 右	〃 副会長
菅 原 和 弘	〃 専務理事

◆懇談の要旨

～ 4社による発表 ～

株式会社 エヌエルフォーティ



・ものづくり補助金への取組経緯

私共は、昭和45年に普代村に工場を設立して以来、半

世紀あまりユニチカと関連会社の下請として学校用トレーニングウェアの縫製加工を行ってまいりました。

近年は消費者ニーズの多様化に加え、少子化の影響で必要な商品を必要な枚数だけ生産するという企業方針から、一貫生産の一枚当たりの生産枚数も少なくなり、追加生産が繰り返し行われる状況となりました。

こうした多品種・小ロット生産に対応しながら採算性を維持することが緊急かつ重要な課題となっております。一番のネックが裁断工程です。

100枚を一度に裁断するのも、1枚を裁断するのも時間的にはほとんど変わりません。小ロットの裁断を行うと、必然的に裁断枚数が少なくなり、次の縫製工程に進める枚数が不足し、ミシンがフル稼働できない状況が発生します。

そうしたなか、時代のニーズに呼応するように一枚裁断に特化した自動裁断システムが発売されるようになり、導入について検討しているタイミングで「ものづくり補助金」を知り、平成25年8月採択を頂きました。

・ものづくり補助金における取組概要と展望

学校体育用のトレーニングウェアの受注の大半は、4月の新学期に間に合わせる必要があり、例年10月から3月までは繁忙期になります。それに対応するためにも導入した一枚裁断に特化した裁断設備機器、従来の量産型裁断設備機器と同時に稼働することができますので、量産品への裁断への影響も最小限に抑えながら試作品や見本品、細かい追加生産にも対応することができるようになりました。

更に、裁断設備機器導入により、細かい受注にも対応できることから、セミオーダー方式で生産するジャージ素材の一般向けの衣料品を製造販売することを決定しました。「地産地着」のコンセプトのもと、オリジナルブランド「KAZUMARU」を立ち上げ、ニッチ市場の開拓に取り組んでいます。

これまでの受注としては、普代村にある介護施設、普代小学校、久慈市の保育所の他、盛岡の少年サッカーチームのユニフォーム等々。昨年は東京都内のスポーツ用品業者から小学校3校の注文を頂きました。

きめ細かなサイズ展開や要望に対応し、フットワークの良さから高い評価を頂いているところです。学校用体

育用というシーズン制の強い受注環境を改善し、年間工場稼働率の平準化を図るために積極的に市場開拓を行ってまいります。

今回、製造販売に取り組むことで、今までは分からなかった消費者の本音と要望を直接聞くことができるようになりました。下請けとしての縫製加工業から完全脱皮することは無理かもしれませんが、消費者のニーズを発注先企業様の製品価格にも提案することができる委託加工先として存在価値を高めることができると考えています。

また地産地着としてのニッチ市場はまだまだ開拓の余地があるものと確信し、日々情報の発信と情報の収集に努めているところです。

・地域振興・地方創生にかける思い

東日本大震災では裁断設備機器の一部が大きな揺れにより支障し、複数回の出張修理が必要な被害を受けました。従業員の人的被害はなかったことから被災の一週間後から工場を稼働することができました。地元の企業として地元の従業員の方々の経済的な支えとなるため、働ける場所と機会を早期に継続し提供することができたことは復興支援の一助になったものと考えています。

「^{カズマル}KAZUMARU」ブランドの商品を地域の人達が地域の企業で生産した商品を地域の人たちに愛着を持って着用して頂く「地産地着」により、地域経済の好循環が生まれ、地域経済が活性化し、弊社も元気になれる仕組みを構築したいと考えております。

製造業における人材不足は深刻な状態です。誰でも良いわけではなく、本人のやる気と資質、職場での協調性が求められるところです。現在募集しても応募者がほとんどないため、定年退職者の補充が十分できないことと、従業員の高齢化に伴う次世代への技術の承継については早急に対策を図らねばならない状況です。

今後とも地域の方々との情報交換を密にさせて頂き、地域に根差した企業として安定的な工場運営ができるよう努力致します。次世代の子供達にも工場見学や実習体験等を通し、生産現場の実態と製造工程を理解してもらう機会を多く作るように努めます。

普代小と普代中では毎年3年生が一年に一度工場見学に来て頂いています。中学生は数名ですが実習体験を毎年一回やっています。それらにより、商品に対する愛着を増し、将来この工場で働いてみたいと考える子供達が一人でも多くなることを期待しています。

株式会社ナレロー

・ものづくり補助金への取組経緯

私が以前通信教育を受けていた際の話です。少々難しい資格試験でしたが、地方では資格学校がありませんの

で通信教育に頼らざるを得ませんでした。そんなときに思ったのは「コンピューターを使い、学校での授業や通信教育、そして本での学習を超えた新しい学習スタイルを確立することができないか？」ということでした。それが「ナレロー」を作った動機です。

キーワードは「習うより慣れろ」です。我々(株)ナレローは、これまでのような本だけに頼った学習方法とは違い、楽しみながら習得する独創的な学習スタイルを提案し続けてまいります。

主力商品はワード、オフィス、パワーポイントと言ったマイクロソフトオフィスのスキルを身に付けるためのチュートリアルソフトです。特徴は実際のオフィスを使った実践的な学習で、その場で正負が判定されるためゲーム感覚で楽しく学習できることです。

主な顧客は全国の大学生で毎年6万人に利用されています。これはマーケットシェアの約10%に相当します。特に最近では全学生が情報リテラシーの授業を必ず履修しますが、パソコンスキルは個人差が大変大きく、一斉指導に無理無駄を感じている教職員のニーズが高まっていることや、ICT教育における反転授業へのニーズが高まっていることが主な理由です。

ICT教育とは学校教育の場に情報通信技術を活用することをいいます。ICT教育は教職員のICT活用、教室におけるデジタル教材などのICT活用、学生がICTを活用する三つのフェーズに分かれております。特に第3フェーズの学生のICT活用については予習を取り入れた「反転授業」に注目が集まっています。

「反転授業」とは、ICTを活用し予習した学生が教室で演習に取り組むための新しい教育のかたちです。これまでは教室で講義を行い、自宅で復讐するという流れをまさに反転させたものです。

反転授業が画期的なのは、ICTを活用した予習を加えた途端に一方的、指示待ち、受け身、居眠り、代返、私語、スマホいじりなど一斉授業が抱えていた悪循環を好循環に一転させる効力があることです。

今まで教室で行っていた講義内容を予習に変えれば、教室にいる時間を予習で得た知識の定着や応用に割くことができます。授業中にペーパーテストを行ったり、レポートを書かせたり、持論を発表させたり、必然的に演習中心の授業に変わっていきます。



・ものづくり補助金における取組概要と展望

反転授業というニーズに応えるためには当社は三つの課題を抱えておりました。

一つ目はコンテンツの柔軟な提供です。教職員が学生に身に付けて欲しいと思う学習内容を正しく評価するための試験を柔軟に提供する必要があります。現状ではナレローは個々のユーザーの PC にインストールされるため、新しいコンテンツを開発し提供するためにはその都度インストール作業が必要です。そのため時間や手間がかかり、柔軟な提供ができません。

二つ目はナレローを最新の状態に保持することです。全ての学生のナレローは常に最新の状態を保持し、予習している学生などを把握できます。またランキングではクラス内での学生の頑張りを可視化できます。また問題ログを見ればどの問題で間違いやすいかとか、時間が掛かっているかなどを把握することができます。

三つ目は学習状況の共有です。学習ログを共有し教職員は個々の学生がどのように学習を行っているかを把握する必要があります。現状のナレローは学習ログを共有していないため、学習進捗状況の管理ができません。また学習ログは膨大な提供量になるため共有には大きな保存領域を備える必要があります。

これらの課題を解決するためにはナレローのクラウド化が必要になり、このナレローのクラウド化のためにもものづくり補助金を活用させていただきました。

クラウドとはサービスやデータがインターネット上のサーバーにあり、どこからでも必要な時必要な機能だけを利用することができるコンピューターネットワークの利用形態を言います。クラウド化により、新しいコンテンツをクラウド上に配置すると、ユーザーはインストールすることなくコンテンツを利用することができます。

生産性向上に繋がる成果としては、クラウドサービスとして提供することによりパッケージが不要になります。そのため製造コストと在庫リスクもゼロにすることができました。

付加価値の向上としては、クラウド化によりサービスを柔軟に提供することができ、また学習ログというビッグデータを取り扱い、新たなサービスの創出することができました。

クラウド型成績管理「ナレロープレミアムシステム」は反転授業を実現するためのシステムです。学習ログをクラウド上のサーバーに送信することで教職員と学生の間で学習情報を共有できます。反転授業は学生が事前に予習していることが前提ですが、多くの教職員は「学生が本当に予習をしてくるだろうか？」という不安を持っています。授業に対するレベネス、即ち学習に対する準備がと整っている状態の習慣化が課題と言えます。自宅で一人でも、自学自習して欲しいというニーズがあります。「ナレロープレミアムシステム」はこれに応えるシステムです。

また学習時間の管理もしておりまして、一夜漬けなど偏った学習や、平均的にムラなく学習をしている学生などを把握することができます。ランキングではクラス内での学生の頑張りを可視化することができます。また問題ログを見ればどの問題で間違いやすいかとか、時間が掛かっているかなどが把握できます。

当社を取り巻く環境の変化について、日本の 18 歳人口は 2017 年まではほぼ横ばい状況ですが、2018 年以降大幅に減少すると予想されており、市場の大きな成長には限界を感じています。

そこで、中長期的には ASEAN など今後成長が見込まれる市場展開の準備を進める必要があります。今、台湾での展開を目指しております。台湾は ASEAN での拠点づくりのためには地理的・言語的に最適です。親日国ですので、比較的安心してビジネスを進めることができます。

当社は 2010 年より岩手大学教育学部と共同研究を行ってまいりました。昨年 4 月より 6 か月間、岩大の田中教授が高雄師範大学の客員教授として招かれておりました。これをチャンスと捉え、昨年 5 月に視察のため高雄師範大学を訪れました。田中先生のご好意でナレローを使った授業を行うことができ、台湾の大学生が真剣に取り組む様子を見て、台湾の学生にも喜んでいただけたという実感と自信を持つことができました。

現在台湾の高雄師範大学、岩手大学、当社の三社で共同研究を行っております。テーマは高雄の ICT 教育の現状と今後についての共同研究。高雄におけるナレローの最適な導入期間、及び最適な導入方法についての共同研究です。また文化、国籍、言語などの差異を問わずに利用できるユーザビリティ向上のためにユニバーサルデザインの研究も行っております。

昨年 12 月に高雄師範大学に高雄市内の高校の校長及び情報科目の担当教員の皆様にお集まり頂き、有識者懇談会を開催しました。高校の現場でのナレローの活用について有意義な意見を伺うことができました。

現在、ナレローの中国語版を開発中です。中国語版の開発にあたり、高雄師範大学から岩手大学へ留学している大学院生を雇用しております。今日お配りしたチラシの中国語版は台湾のスタッフに翻訳して頂いたものです。

今後は、ビジネスを通じた国際交流の輪を広げて参りたいと考えております。ソフトウェアを他の国の言語に翻訳することをローカライズと言いますが、ローカライズのシステムを開発し、将来は中国語に限らずさまざまな言語のナレローを開発して参ります。

・地域振興・地方創生にかける思い

アジア各国から岩手へ来た留学生を開発・営業スタッフとして向かえ入れることにより、留学生のキャリアアップとビジネスを通じた国際交流人口の増加に貢献した

いと考えております。また、クラウド・ビッグデータに加え、AIを活用することにより、新たなビジネスの創出を目指して参ります。AIを活用し、学習者一人一人に最適なコンテンツを自動的に提供するシステムの実現などが考えられます。こうした取り組みの岩手における先駆けになりたいと考えております。

竹内真空被膜 株式会社



・ものづくり補助金への取組経緯

弊社は、平成元年に千葉県船橋市から花巻市の東和町にやって参りました。引越すにあたっては縁もゆかりもない地域ではあったのですが、花巻は空港・高速道路が近い、新幹線も停まるという非常に地の利が良いことで選定しました。

事業内容は、主に自動車用のバックミラーの鏡の部分を作っております。金ヶ崎の東日本トヨタで生産している「アクア」や、宮城の大平で作っている「シエンタ」、最近販売が始まった「CH-R」。これら車種には弊社の鏡が全車両に搭載されています。非常にありがたいと思っております。

当社は「真空蒸着」、真空ポンプで空気を抜いて不純物がないような状態にして、色々な金属に熱を加えて気体へと昇華させガラスに付着させて鏡を作るということをやっております。親水ミラーや広角ミラーと付加価値の高いものを手掛けて、売上の9割を占めています。

「ものづくり補助金」の取組経緯は、リーマンショックの翌年に売上が3分の1に落ち込んでしまったことにあります。その2~3年前は中国の好景気で需要が旺盛なこともあり、大型設備投資をしまして、「さあこれから生産活動」というときにリーマンショックということで、設備投資の負債が乗り掛かってしまった経緯があります。「バックミラーの売上減少をカバーする仕事は何かないか？」ということで色々探している状況で自動車搭載のヘッドアップディスプレイに着目しました。自動車を運転してフロントガラスの先にナビゲーション情報などの



ヘッドアップディスプレイのイメージ図

画像を映し出すシステムなのですが、それをやるには鏡を何種類か組み合わせて疑似画像を作り出さなければなりません。弊社が持っているコア技術で何とかいけるのではないかと取り組みました。

何をやるにも設備産業でして、負債も抱えて仕事の内容も未だ決まっていない状況で投資するには厳しいところがあり、「花巻市起業化支援センター」に相談に行きました。そこで「ものづくり補助金」をご紹介して頂きました。

・ものづくり補助金における取組概要と展望

ヘッドアップディスプレイは凹面鏡とって凹んだ箇所を使うのですが、画像を映し出すために面精度を高める必要があります。製品サイズよりも少し大きくガラスを曲げて、その中から良い部分をくり抜く工程をやらなければならないことが判明しました。その場合、ガラスの切断面に対して、直角・垂直・面直。これを直角に切っで行かないとガラスを綺麗に切れない。寸法精度が出せないというところがありました。

今まで弊社の切断方法は、「XY軸のロボット」と言って垂直方向にしか刃物が下りないので、なかなかガラスに対して面直に角度を当てることができなかつたのです。

そこで、ものづくり補助金で6軸ロボットと言われる多関節ロボットを導入させて頂きました。これは多関節で色々な角度からガラスに対して切断面が直角になるので、かなり綺麗に切ることができます。また、今まではロボットの動作プログラムを入力する際に、少しずつ刃先を動かし記憶させ、データを作るのに早くても半日、トライアンドエラーで遅くなると1日~2日と非常に時間がかかっていました。

今回はこの6軸ロボットとCAD/CAMとデータ、発注元からモデルデータで出来上がった3次元データを単純にロボット言語に切り替えて展開し、プログラミング時間を短縮させる二つのテーマで取り組み、作業時間を三分の一に短縮することができました。平成29年あたりの製品化で動いており、今がラストスパートで各電装メーカー・光学機器メーカーさんから試作品の最終評価に入っております。

現状では、カーナビ情報を見ようとすると運転者のア

イポイントが動いてしまって前方が見られない。それがヘッドアップディスプレイを使うことによって常に前を見ているかたちになるので安全性が非常に高くなります。

平成 32 年にはヘッドアップディスプレイ市場が 70 億円へと成長する予測がされており、どんどん取り組んでいきたいと考えております。

特にこのガラスを曲げて切る技術を有している企業は全国で 10 社もないようですから、何とか岩手でイニシアティブを取りながら市場を獲得して、電装部品も納めて行けるように頑張っていきたいと思っております。

株式会社 ワイ・デー・ケー



・ものづくり補助金への取組経緯

当社は、昭和 47 年東京稲城市から誘致企業として遠野市に設立しました。主な事業は通信・放送機器、制御機器、設備機器に内臓されるプリント基盤の製造をしております。もう一つは精密切削加工の機械加工もやっております。

今回のトレーサビリティシステムでは、医療分野に特化したところで事業展開をしたいということで今回の補助金を活用させて頂いております。

当社ではこれまでの製造管理はコンピューターであったり、紙ベースであったり、二通りの手法でクレームや製品不良の苦情が来ても、製品の基盤にどのようなロットの部品が乗っているか、何という部品が搭載されているのかまでは管理できていない状態でした。

今回の補助事業によりまして、製品の基盤に 5 ミリ角の QR コードを基盤の端に、レーザーヘッドでプリント基盤に印字をします。それと今回開発しましたトレーサビリティシステムの管理システムがございます。部品ごとにトレーサビリティシステムの機械に登録します。そうすると部品のラベルが印字され配置されます。

部品を搭載する際、こちらの基盤の QR コードと部品から出てくる QR コードを双方読み取ることによって「この基盤にこの部品が乗りましたよ」と、全てトレーサビリティシステムに蓄積されます。これにより部品個々の管理ができますし、トラブル等々があった場合も

迅速な対応ができるということになります。

特に医療分野におきましてはそういったトラブルには迅速な対応が早急に必要です。過去にそういったトラブルで、数週間、数か月追跡に掛かった事例もありますので、そこを迅速にしてリスクを減らそうということで取り組んだ内容です。

システムを導入して、平成 27 年に部分的運用を開始しています。その際に医療機器関係の部品の受注がある程度できてきていたので、適用を開始しております。それ以降、4 万件に及ぶ部品データを蓄積し、平成 28 年の春から全面運用が開始されました。

医療分野の進出が叶いましたので、今後は、ハードルが高いのですが自動車の車載関係にもチャレンジしていきたいと思っております。そちらのほうも含めましてホームページにもトレーサビリティシステムを掲載・アピールして随時受注拡大に繋げていきたいと考えております。

・地域振興・地方創生にける思い

弊社は遠野という立地条件にあり、東日本大震災の際には設備や建屋にかなりの被害を被っております。その中で復興する際に「社員のモチベーションを大事にした」ということで、社員のチャレンジ精神を上げるため、当時の八巻社長の発案により「社員全員に国家試験にチャレンジさせる」という通達があり、震災の年から国家技能士へのチャレンジを開始しております。

今までは指導者が資格を取って従業員を指導していくという形でした。この国家試験というのが全国平均の合格率が 40~50%というものでして、立ち上げ当初の社員の合格率は 20%と散々たる結果でした。その後やり方を考えながら取組みまして、次年度からは合格率 80%以上になりました。

プリント基盤関係の電子機器組立試験や切削関係のマシニングセンタ試験など、遠野工場の従業員 200 名弱おりますが、その半数がこのような国家試験にチャレンジしています。特にこの電子機器組立の技能検定ですが、約半数以上が 30 代から~50 代の主婦層がチャレンジして合格率をかなり上げております。

一昨年は岩手県の合格率を上げたことから職業能力開発協会の会長表彰も頂きました。こういった形でどんどん社員のモチベーションを上げながら地域に貢献していきたいと考えています。

最後に当社はお客様との信頼、そして従業員と我々の信頼を大事にしてものづくりに取り組もうという姿勢でがんばっております。



谷村会長よりコメント

私も、ものづくりをしている人間でありますので、大変興味深く聴かせて頂きました。

本日の出席者の4社が取り組まれた「ものづくり補助金」は岩手県では延べ337件が採択されております。大変多くの応募がありますが、全国平均から見ると4割弱という状況でして、中央会としましても国に対して要望しておりますが、もっと継続的な支援をお願いしております。

付加価値を上げる、モノを正確に作るということは言葉では簡単ですが、実際に行動に移している、非常に努力をしている、出来たから良いということではなく、さらにもう一段上を目指し努力をしていかないと。

今日の皆様方のお話を伺って私共もまだまだ勉強をしなければいけないと思いました。大変勉強になりました。ありがとうございました。

達増知事より講評



「ものづくり補助金」を活用した様々な展開ということで、エヌエルフォーティさんは一枚裁断機を導入し、小ロット製品への対応やセミオーダーも作れるようにな

ったということで大変素晴らしいと思います。

「地産地着」という会社の方針に沿った発展が期待できるのではないのでしょうか。また普代小学校や中学校の生徒たちにも工場見学や体験の機会を実施して頂いて普代村にしっかり根差した地元密着型の活動は県としては大変有難いので、是非その調子でお願い致します。

ナレローさんは定評あるナレローの教材をクラウドサービスにして、製造コスト・在庫コストが大幅に節約できることに加えて外国語版の展開がやりやすくなるという一大チャンスにも繋がったところが大変素晴らしいと思います。

岩手県にも留学生が結構来ていると思いますが、そういう岩手に来ている留学生も巻き込んで海外展開を図られるというのは素晴らしいですし、台湾での展開もかなり進んできているので、是非この調子で宜しく申し上げます。

竹内真空被膜さんは6軸多関節ロボット切断機に活用されて自動車用ヘッドアップディスプレイの開発をされているということで、もともとの自動車ミラーなどで培った技術をこれから将来性ある分野に繋げて是非成功させて頂きたいと思っておりますし、岩手県も自動車産業の中で地元企業がより製品を提供できることを目指しておりますので、是非活躍して頂きたいと思っております。

ワイ・デー・ケーさんはレーザーマーキング装置トレーサビリティシステムを活用ということで、細かい基盤に直接QRコードを付けることで、何週間も掛かっていた追跡が迅速にできるのは大変素晴らしいと思います。導入前と後では全然仕事の次元が違うまさにイノベーションだと思いますので、医療関係から自動車関係まで大いに期待しています。

また、社員の皆さんに技能検定とか国家資格の挑戦をしているということも岩手で働く人の人材育成という観点からも大変有難いことですので、更に宜しく申し上げます。

県の宣伝もさせていただきます。この4月から平成29年度のものづくり産業の振興策として「自動車関連産業重点強化支援事業」による企業の設備投資等の生産強化支援があります。

また新たな産業分野の振興に向けて「医療機器等製品開発支援事業」等による製品の試作開発等への補助、県内企業の航空機・ロボットなど新たな成長分野への参入、IOT技術の活用等の支援をしていきます。

各企業共通の課題であります人材の育成確保定着についても、「いわてものづくり産業人材育成事業」や、「いわて産業人材奨学金返還支援制度」。奨学金の返還をする支援事業が全国各地で立ち上がっておりますが、岩手でも創設していきますので宜しく申し上げます。



新設立組合のご紹介

①いわて家電事業協同組合 ②安比塗企業組合

①いわて家電事業協同組合

1月12日（木）、一関市と遠野市の電気機械器具小売業者7名からなる「いわて家電事業協同組合」（理事長：千葉仁氏）の創立総会が開催された。

家電小売業界では、平成23年7月の地上デジタル放送開始に伴う薄型デジタルテレビの特需以降、業界を牽引する主要な商品がない中で、経営者の高齢化と後継者不足等による廃業の増加といった課題に直面している。

こうした厳しい状況の下、地域の家電小売店4名が設立発起人となり、共同事業の実施による円滑な業務の推進と経営の強化発展を図るため、事業協同組合の設立を決意した。

組合では、各組合員が昔からの信頼関係で繋がっている既存顧客との関係を維持しつつ、組合員の新規顧客の開拓を促していく考えである。

主な事業としては、家電商品の共同購買、各組合員の顧客情報の共同管理、家電商品の販売促進を目的とした共同催事及び共同宣伝等を実施していく。

特に、顧客情報の共同管理事業では、各組合員の顧客情報を電子データとして組合が管理する体制を整えることから、各組合員の情報管理に伴う負担を軽減するとともに、販売促進を図るための事業を展開する上で、顧客情報の効果的な活用を期待される。

組合名	いわて家電事業協同組合	理事長	千葉 仁
出資金	620,000円	組合員数	7名
所在地	一関市山目字十二神 145番地2		
組合事業	①家電商品の共同購買 ②顧客情報の共同管理 ③共同催事及び共同宣伝	④教育情報事業 ⑤福利厚生事業	

②安比塗企業組合

2月1日（水）、女性漆塗師4名により組織される「安比塗企業組合」（理事長 工藤理沙氏）の創立総会が開催された。

岩手県北部、安比川流域は、豊富な森林資源を有し、古くから良質な漆産地が形成され、生活に根差した漆器が生産されてきた。八幡平安代地区では、地域産業の振興、漆器文化の後世への伝承を図るため、昭和58年、その担い手を育成する安代町漆器センター（現：八幡平市安代漆工技術研究センター）を設立。安比塗漆器工房では、漆器づくりの伝統を承継し、現代の生活に合った「安比塗」を製作、販売している。

女性の視点から、使い勝手の良い漆器を広く販売展開していくと共に、世代を超えて愛される安比塗の将来的な品質の維持に向け4名の女性塗師が企業組合制度による創業を決意。本会では、平成27年度より事業計画の策定を含め、企業組合設立を支援してきた。

組合では、漆器の製造・販売、漆塗体験教室や催事の企画・運営、安比塗漆器工房の管理運営等の事業を展開していく。

工藤理事長は就任の挨拶で「安比塗ができて34年、100年以上で伝統工芸品となる世界では、まだまだ新しい塗り物だが、安比塗への信頼は年々高まっている。海外展開を含め、現代の生活様式にも合わせた、新しい提案へ挑戦し続ける団体として活躍していきたい。」と所信を述べた。

組合名	安比塗企業組合	理事長	工藤 理沙
出資金	40,000円	組合員数	4名
所在地	岩手県八幡平市叭田 230番地		
組合事業	①漆器の製造、販売及び修理 ②漆器製造原材料等消耗品の販売 ③漆塗り体験教室及び催事の企画・運営	④安比塗漆器工房の管理運営 ⑤漆器の製造、販売及び修理に従事する人材の育成、研修 ⑥前各号の事業に附帯する事業	

組合運営基礎研修会、組合決算・税務講習会、自治監査講習会開催

本会は、盛岡市の岩手県民会館において、2月15日(水)に「組合運営基礎研修会」、同16日(木)に「組合決算講習会」、「組合税務講習会」、そして同24日(金)に「組合自治監査講習会」を開催した。

【組合運営基礎研修会】

当研修会では、「日常発生する組合の事務処理」をテーマに本会職員が講師を務め、組合員の加入脱退から、総会前後の手続き及び行政への届出・登記など幅広い分野について説明した。当日の参加者のおよそ半数が組合事務局の初任者であり、研修内容が、組合運営の基礎的且つ実務的な事務処理・手続き等という事もあり、参加者は熱心に聴講し、多くの質問が寄せられた。

【組合決算・税務講習会】

組合決算講習会は、税理士の三浦憲一郎先生を講師に迎え、「組合決算の手続きと留意点」をテーマに、組合決算の具体的な事務処理及び手続き等を説明した。組合税務講習会は、同じく三浦先生を講師に、「法人税務申告書作成の実務」をテーマとして、講習が行われた。主な組合関係税制の概要についての知識を習得し、合理的節税の方法と税務申告書作成手続きについて理解が得られるように、時折事例や演習を交えながら解説・説明がなされた。

【組合自治監査講習会】

当講習会は公認会計士の遠藤明哲先生を講師に迎え、「監査の手法とチェックポイント」をテーマに、会計士としての経験から、着目すべき点や実際の監査手法について詳しく解説された。また、近年大企業による不正問題がニュースになり、監査の認識が改めて問われていると述べられた。



【運営基礎研修会の様子】



【決算・税務講習会の様子】



【自治監査講習会の様子】

スタンプ・ポイントカード研修会開催

2月22日(水)、盛岡市ホテルルイズにおいて、平成28年度スタンプ・ポイントカード研修会を開催した。

研修会にはスタンプ・ポイントカード事業を実施する組合の役職員等22名が参加。

中小企業診断士 春名 芳郎 氏を講師に迎え、「個店におけるスタンプ・ポイントカードの効果的活用策」をテーマに実施。スタンプ・ポイントカードの現状と課題、目的や役割、機能を踏まえ、利用客の固定化に向けて、顧客心理や関連理論に基づき、ポイント付与条件や満点条件等のポイントプログラムの設定方法や工夫、満点利用時の対策など、効果を高めていくための具体的な方策や取組みのヒントについて、事例を交えながら解説された。参加者にとって今後の取り組みに参考となる研修会となった。



研修会の様子



平成 28 年度岩手県中小企業青年中央会事業

「若手経営者連携交流フォーラム」開催

2月24日（金）、岩手県中小企業青年中央会（会長佐藤康）主催による「若手経営者連携交流フォーラム」がホテル東日本盛岡に於いて開催された。若手経営者の資質向上、異業種連携等による事業視野拡大と連携促進を目的としたもの。

青年部活動事例発表の部では、岩泉純木家具（有）専務取締役の工藤林太郎氏から「当社の事業承継例」と題して、氏が家業を継いだ経緯や、昨年台風10号による岩泉地区、当社への被害状況やこれからの取組み等について説明がされた。

講演第1部では、兵庫県立大学大学院経営研究科客員教授の勝瀬典雄氏を講師に「地方創生と地域中小企業」と題して、若手経営者がいかに連携を強め、岩手に客を呼び込み事業化しマネタイズする仕組みをつくるか、我が社が生き残るための方策等について講演いただいた。

第2部では、中小企業診断士（日本感性工学会評議員）島田忠彦氏が「企業活動に感性価値（クリエイティビティ）を」と題して講演。感性価値とは何か？感性価値が私たちに与える影響等について具体的事例が紹介された。

引き続き行われたトークセッションでは、「地域活性化のため、いかに地元企業が連携し、強かに市場創出するか」をテーマに、組合、業界、青年部による地域課題に対する新たな取組みについて意見交換が行われた。

フォーラム後は、懇親会を開催。講師を囲み早速、新たなプロジェクトの意見が交わされるなど盛会裡に終了した。

同会は来年度で創立40周年の節目の年を迎える。創立40周年記念式典は、平成29年7月開催予定。



主催者挨拶をする佐藤康会長



トークセッションで議論を交わす受講者ら

じのもの×スイーツ逸品コンテスト 開催

2月25日（土）、本会では、いわて6次産業化支援センター事業の一環として「じのもの×スイーツ逸品コンテスト」を滝沢市のビッグルーフ滝沢（いわてS-1スイーツフェア じのもの×スイーツ特設ブース）にて開催した。

本コンテストは、県産農産物を使用し、その特性を生かしたスイーツの優良事例を表彰、紹介することにより、6次産業化や農商工連携の推進、県産農林水産物の需要拡大を目的としたものである。

これまでに本会で開催した交流会でマッチングし、商品開発に取り組んできた生産者と菓子店による7組のペアが参加、以下の7商品がエントリー。一般来場者による投票の結果、(株)砂田屋×JA 新いわて八幡平営農経済センターの「アンジュ」（杜仲茶を使用したケーキ）が最優秀賞を受賞。(株)岩手エッグデリカ×キートスファーム(株)の「ブロッコリーのエクレア」が「大地のめぐみ賞」（最も素材を活かした商品）を受賞。じのもの×スイーツ特設ブースではエントリーした新商品の販売も行われ、消費者への商品PRの機会ともなった。



参加者による表彰式後の記念撮影

<エントリーペア・商品一覧（五十音順）>

ペア（菓子店×生産者）	商品名	備考
(株)岩手エッグデリカ×キートスファーム(株)	ブロッコリーのエクレア	大地のめぐみ賞
菓匠 松栄堂×ほそかわ農園	プチぷよトマトまんじゅう	
(株)砂田屋×JA 新いわて八幡平営農経済センター	アンジュ	最優秀賞
創菓工房みやざわ×(有)サンファーム	プリンセス・ミカ	
成田クッキングセミナー×(有)アルパ	エゴマのチカラ	
梅月堂×クッキングトマトファンクラブ	梅月堂特製いわてのトマト寒天	
ブル・ドゥ・ネージュ盛岡緑が丘店×本宿果樹園	本宿りんごのとり〜りチーズプリン	



平成29年度 特に注力する取組み

いわてで働こう推進協議会

県内就職(地元に残ろう)、U・Iターン(地元に戻ろう)、企業の認知度向上(地元を知ろう)
働き方改革、処遇改善の推進、職場定着の促進 他

昨年2月9日に産学官等オール岩手で若者や女性の県内就業と創業支援を促進するために『いわてで働こう推進協議会(会長:達増拓也岩手県知事)』が設立された。

当協議会では、県内就職への取組みの意識醸成を図る「いわてで働こう推進大会」の開催、岩手の就職支援情報サイト「シゴトバクラシバ IWATE」による県内就職やUIターン関連情報の発信、「働き方改革」アワードによる県内企業の働き方改革、生産性向上の促進等に取り組んできた。

平成29年度は、本県の人口減、生産年齢人口減少に対する課題を、労働力の確保、県内就業の促進、起業・創業への支援、働き方改革や人材育成による労働生産性の向上、早期離職への対応と捉え、『県内就職』、『起業・創業』、『雇用労働環境』を3つの柱とし事業を展開する。

『県内就職』については、新卒者等の県内就職(地元に残ろう)、U/Iターン(地元に戻ろう)、県内企業の認知度の向上(地元を知ろう)に取り組む。地域創生インターンシップの他、いわて産業人材奨学金返還支援制度(下記参照)を実施する。

『雇用労働環境』については、働き方改革推進のため、長時間労働是正などの「いわて働き方改革推進運動」への参加企業の拡大、いわて働き方改革アワードの優良事例の取組みの普及啓発を図る。さらに、処遇改善推進のため、非正規労働者の正社員転換・待遇改善に向けたセミナー等の開催や各種支援制度の活用を促進するほか、職場定着促進について、若年層の早期離職の改善に取り組む。

いわて産業人材奨学金返還支援制度について

- 趣旨: 県内ものづくり企業等の技術力・開発力の向上等を担う産業人材を確保し、地域産業の高度化、持続的な発展を推進していくため、奨学金返還の一部を助成することにより、大学生等の県内への還流・定着を図ろうとするもの。
- 支援対象者: 8年以上岩手県内の事業所に就業し、かつ、県内に居住を予定する①大学、大学院及び高専在学学生、②既に大学等を卒業し県外に在住する35歳未満のU・Iターン希望者(理工系学位又はそれに準ずる相当程度の能力を有する者に限る。)
- 対象奨学金: 日本学生支援機構奨学金
- 対象分野: 自動車、半導体、医療・福祉機器、航空機、ロボット、加速器関連、環境・エネルギー及びソフトウェア開発の分野等
- 支援の手順
 - ① 制度の利用を希望する者が就業前に申請を行い、審査の上、支援候補者として認定。
 - ② 認定された者の県内事業所への就業1年目から就業・居住、奨学金返還状況を確認の上、返還支援額を分割して支援対象者に助成。
- 募集人数: 毎年度50名程度(平成29年度から平成31年度まで)。

		4大+大学院・6年制大学	大学のみ	大学院のみ	高専
対象経費	登録企業	奨学金の総額(既卒者は返還残額)の1/2			
	一般企業	奨学金の総額(既卒者は返還残額)の1/3			
上限額	登録企業	250万円	150万円	100万円	70万円
	一般企業	167万円	100万円	67万円	47万円

※登録企業とは、対象分野に該当する企業であって本制度の趣旨に賛同し一定の寄附を行うものであり、支援候補者が当該登録企業に就業した場合には、一般企業と比較し支援額が上乘せになる。

- 今後の予定等: 平成29年4月から募集要項の配布、支援候補者の募集を予定しております。

詳細につきましては、(公財)いわて産業振興センターまでお問い合わせ下さい。(TEL019-631-3820)



経済産業省創設「おもてなし規格認証 2017」スタート！

おもてなし規格認証とは

サービス品質を「見える化」するための規格認証制度として「おもてなし規格認証」が誕生しました。2020年東京オリンピックを視野にサービス産業の活性化や生産性の向上を目的に経済産業省が創設した制度です。

サービス産業は今や日本のGDPの約70%を占め、地域経済、ひいては日本経済の発展には、このサービス産業の活性化と生産性の向上が不可欠です。しかし、サービスは「その場・その人」が受ける一度きりの、それ自体は「目に見えない」ものです。このため事業者が高品質なサービス提供を行っても、それを付加価値として価格に転嫁しづらい現状にあります。日本全体のサービス産業の底上げをはかるためには、高品質なサービスに対して、それにふさわしい評価が受けられる制度的な枠組みが必要です。そこで、こうした現状を改善し、サービス品質を「見える化」するための規格認証制度がスタートしました。

中小サービス事業者の主なメリット

① サービス品質の見える化

登録・認証後に発行される「登録証」または「認証書」とマークを店頭やホームページに掲出したり、名刺やパンフレットに印刷することができます。サービス品質を「見える化」することで、皆さまの取組を顧客や地域にアピールできます。

② 公的支援（補助金や公的融資など）が受けやすく

サービスの向上や普及のためには、商品開発や販路開拓は欠かせない取組です。これらの取組を支援すべく国や地方自治体などの公的機関では、ITへの投資など、業務の革新・改善を図る事業者に対する補助金制度や融資制度を設けています。今後、これらの融資や補助金等の申請時に、「おもてなし規格認証 2017」の取得が有利となる可能性があります。

認証は「紅」、「金」（一つ星）、「紺」（二つ星）、「紫」（三ツ星）の4種類

「紅」認証を登録すると「金」、「紺」の認証審査が受けられます（「紫」は検討中）。

「紅」認証は、定められた規格30項目のうち15項目以上が、すでに実施している、もしくは実施したいという意志がある自己適合宣言が必要です。HPから登録を行うことができます。

	(紅認証)	★ (金認証)	★★ (紺認証)	★★★ (紫認証)
種類				
各認証の考え方	サービス向上の取組に意欲的なサービス提供者	お客さまの期待を超えるサービス提供者	独自の創意工夫が凝らされたサービス提供者	お客さまの期待を大きく超える「おもてなし」提供者
登録・認証の仕組み	登録無料 自己適合宣言	審査	審査	現在検討中
登録・認証基準	定められた規格30項目 ^{*1} のうち15項目以上が該当していること の自己適合宣言 ^{*2} が必要です。	定められた規格30項目 ^{*1} のうち「既に実施している取組」が15項目以上該当する必要があります。	定められた規格30項目 ^{*1} のうち「既に実施している取組」が21項目以上該当する必要があるほか、人材育成などの属人的サービスの品質向上に向けた取組を行っている必要があります。	定められた規格30項目 ^{*1} のうち「既に実施している取組」が24項目以上該当する必要があるほか、属人的サービスの品質向上に向けた取組、業務効率化や顧客満足度向上のための独自の取組を行っている必要があります。

*1 裏表紙のセルフチェックシートを参照 *2 すでに実施している、もしくは実施したいという意志がある



株式会社アイオー精密（花巻機械金属工業団地（協）組合員） 第50回グッドカンパニー大賞を受賞

2月1日(水)、東京・大手町の経団連会館で「第50回(平成28年度)グッドカンパニー大賞表彰式」が行われた。グランプリを受賞した株式会社アイオー精密(鬼柳一宇代表取締役社長)をはじめ計14社の代表者が公益財団法人中小企業研究センター前田晃伸理事長から表彰状が授与された。

受賞者を代表して挨拶した(株)アイオー精密の鬼柳一宇代表取締役社長は「昭和52年の創業当時は東北にも量産メーカーが多く、われわれ新参者にも仕事があったが、円高が進み量産メーカーが激減、ある日、売り上げゼロの危機に直面した。そこで、試作、補修、緊急部品といった多品種少量の市場開拓を目指した」と振り返った。「全国各地を回り始めたら、東北の田舎で納期を守るわけがないと門前払いの連続だった。しかし、変種変量生産するなどの工夫で納期を守る実績が徐々に評価され、今では1日当たり6,000件の受注案件をこなしている」と紹介した上で、「インダストリー4.0」の時代。これからは世界市場に挑戦する」と結んだ。

■「グッドカンパニー大賞」とは…優良な中小企業を全国から発掘・顕彰することを通じて中小企業の振興を図り日本経済発展に寄与することを目的として昭和42年に創設。創設から半世紀、これまでの表彰企業は646社にのぼる。受賞後に株式公開を果たす企業も多数輩出している。

表彰区分	企業名	所在地
グランプリ	(株)アイオー精密	岩手県
	(株)東研サーモテック	大阪府
優秀企業賞		
関東地区	旭化成(株)	群馬県
北陸・甲信越地区	(株)協和精工	長野県
北陸・甲信越地区	サン工業(株)	長野県
東海地区	エイベックス(株)	愛知県
近畿地区	関西チューブ(株)	大阪府
近畿地区	紀和化学工業(株)	和歌山県
特別賞	佐渡精密(株)	新潟県
	三昭紙業(株)	高知県
	(株)システムスクウェア	新潟県
	(株)南雲製作所	新潟県
	マルマンコンピュータサービス(株)	青森県
	(株)ワイビーエム	佐賀県



表彰状を受け取る鬼柳代表取締役社長(左)

平成29年度「中小企業活路開拓調査・実現化事業」の公募のお知らせ(全国中央会)

- 事業概要**…中小企業が単独では解決することが難しい問題(ブランド化戦略、既存事業分野の活力低下、技術・技能の承継の困難化、環境問題等)に対して、中小企業組合等で連携して取り組む事業の調査やその実現化について、全国中央会から補助を行うものです。
- 支援対象者**…中小企業組合(事業協同組合、企業組合等)、一般社団法人、任意グループ等です。
- 補助率**…補助対象経費の6/10以内
- 事業の種類と補助金額**…
 - 中小企業組合等活路開拓事業
 - A型…上限額20,000千円(下限額1,000千円) B型…上限額11,588千円(下限額1,000千円)
 - 展示会等出展・開催事業…上限額5,000千円
 - 組合等情報ネットワークシステム等開発事業
 - A型…上限額20,000千円(下限額1,000千円) B型…上限額11,588千円(下限額1,000千円)

※事業の種類毎に要件が異なります。詳細は募集要領等をご覧ください。
- 公募期間**…平成29年2月8日(水)～4月28日(金)消印有効
 - 第1次締切 平成29年3月10日(金)消印有効(終了)
 - 第2次締切 平成29年4月28日(金)消印有効

※締切毎に、審査・採択を行い、予算枠に達した時点で終了となります。
- 募集要領等**…募集要領等は、以下の全国中央会のホームページをご覧ください。

<http://www.chuokai.or.jp/hotinfo/29katsuro-project.html>

○問い合わせ先…連携支援部



《 全国景況 》

1月は、円安動向から輸出関連が好調を維持する一方、米国のトランプ新政権が掲げる通商政策の影響が内外に波及しており、外需不安が増大していることに加えて、全国的な寒波も実需の減退と生鮮品価格の高騰を長引かせていることから、中小企業の先行きは先進各国の情勢も含め、注視していく必要がある。

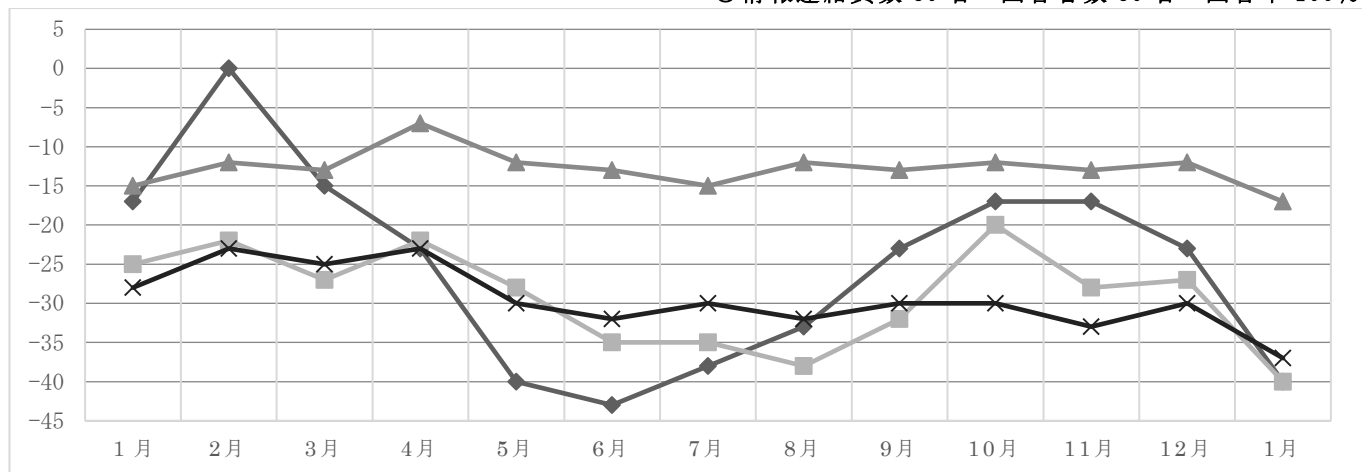
I. 景況天気図（県内）…平成29年1月と平成28年12月のDI比較

平成29年 1月分	全産業			製造業			非製造業			30以上
	1月	12月	前月比	1月	12月	前月比	1月	12月	前月比	
売上高	△40	△23	17P↘	△33	△19	14P↘	△43	△26	17P↘	9~△9
在庫数量	△17	△10	7P↘	△19	△9	10P↘	△14	△9	5P↘	△10~△29
販売価格	2	8	6P↘	5	19	14P↘	0	3	3P↘	△30~△49
取引条件	△10	△7	3P↘	0	5	5P↘	△15	△13	2P↘	△50以下
収益状況	△40	△27	13P↘	△29	△24	5P↘	△46	△28	18P↘	
資金繰り	△17	△12	5P↘	△14	△10	4P↘	△18	△12	6P↘	
設備操業度	△33	△19	14P↘	△33	△19	14P↘	-	-	-	
雇用人員	△12	△8	4P↘	0	0	0P→	△18	△12	6P↘	
業界の景況	△37	△30	7P↘	△29	△19	10P↘	△41	△36	5P↘	

DI (Diffusion Index) とは、景気動向指数や景気判断指数と呼ばれており、景気動向を早期に把握するために使われる指標である。「増加・上昇・好転」といったプラス回答の比率から「減少・低下・悪化」というマイナス回答の比率を差し引いた指数のこと。

II. 全産業（県内）…平成28年1月～平成29年1月DI推移（売上高・収益・資金繰り・景況）

○情報連絡員数 60名・回答者数 60名・回答率 100%



平成29年1月DI 《 ◆…売上 -40 ■…収益 -40 ▲…資金繰り -17 ×…景況 -37 》

Ⅲ. 各業種の概況（県内）…平成29年1月分

◇漬物製造業

消費者の漬物離れと、業界が惣菜にシフトし始める動きが見られた。漬物のこだわりが見られなくなる傾向が予想される。

◇めん類製造業

売上の減少に歯止めがかからず景況感はさらに悪化。地方は過疎化で人口の減少や中心市街地への人口移動で売上の確保ができないと思われる。

◇一般製材業

県内の素材需給は、製材品の荷動きが首都圏を中心に活発化しているが、価格は低迷のままである。

◇一般製材業

チップの需要は堅調であるが、木質バイオマス発電施設との競合により原木価格が上昇、原木入荷も減少、減産を余儀なくされている。

◇印刷・同関連業

年度末に向けて引き合いはあるが、数量・予算とも厳しく期待は持てない様子。

例年の仕事量確保に不安が残る。

◇生コンクリート製造業

依然地域的な偏りがある。官需、民需ともに堅調な県央・久慈・県北地区が増。復興工事向けがピークを過ぎた沿岸・気仙地区、官需・民需とも大型物件が終了した県南地区が減となっている。

◇鋳鉄鑄物製造業

産業機械鑄物の生産量は依然として低迷。原材料・副資材及び燃料の値上がりがあり厳しい経営環境。

◇金属製品製造業

見積依頼は改善してきたものの、鋼材等の値上がり傾向が続いている中、受注価格の上昇は見られない。

◇一般機械器具製造業

半導体・医療・林業関連の受注量は増加傾向。機械部品加工・治工具加工等の一般加工関係は低下傾向にある。また、総じて従業員不足が顕著。

◇野菜果実卸売業

商品の動きの悪い時期に加え、高値続きで消費者の購買意欲が落込み経営面では苦しい状況が続く。

◇化粧品小売業

恒例初売りは天候に恵まれ、順調な売上を確保したが、月の集計は前年並であった。

◇燃料小売業

本格需要期を迎え、タイト感が高まり大幅な値上がりとなった。今後の推移を見る必要はあるが、小売価格への影響は見られないものと思われる。

◇野菜・果実小売業

小売店頭での動きは依然として厳しい状況。但し、冬場でも産直形態店舗は好調な動きである。

◇食肉小売業

牛肉は高値の敬遠、鶏肉は鳥インフルエンザの影響で豚肉にシフトしている。また、冬の定番の鍋物用野菜の高騰も売上減少に影響している。

◇各種商品小売業

初売から中旬までは昨年並に推移したが、下旬にやや売上を落とす。食料品・家庭用品は順調だが、婦人衣料は厳しい状況が続いている。

◇商店街（盛岡市）

初売りの福袋等の売上は、ネット販売の影響を受け年々減少傾向にある。

◇商店街（久慈市）

期待していた初売り商戦は、客数・売上とも伸びず苦戦。郊外店に集中し売上は低迷している。

◇自動車整備業

自動車保有台数が横ばいの中、軽自動車の増加、安全技術搭載車両拡大等の保有構造の変化が整備需要に影響し厳しい状況にある。

◇旅館業

年末年始の温泉地は賑わいを見せたが、中旬以降は引続き低調な業況となっている。

◇旅行業

貸切バス運賃料金制度の改正による旅行代金の値上げにつながったが、徐々に薄らいできたことも売上好転の要因。引き続き、旅行者の安全確保に重点を置いた取り組みを展開する。

◇建物サービス業

本格的な入札シーズンに突入したが、人手不足は相変わらずで、求人を募集しても応募者がいない状況である。

◇塗装工事業

官公庁の受注が減少しており、冬期の閑散期と相まって厳しい状況となった。

◇土木工事業

取扱数量減少は全国的な傾向、先が見えない状況である。また、運転手の確保が難しいが、高齢化に拍車がかかり、人材確保も待ったなしである。

◇一般乗用旅客自動車運送業

厳冬期を迎えたが比較的温暖に推移し、タクシー等利用増には繋がらなかった。

安全・安心・確実な公共輸送機関として社会貢献しつつ業績が上向くよう努めたい。

第 62 回中央会通常総会開催のご案内（予定）

下記日程にて、第 62 回中央会通常総会を開催致します。

■ 開催日時 平成 29 年 5 月 12 日（金）15：00～

■ 開催場所 ホテル東日本盛岡（盛岡市）

※詳細につきましては、後日改めてお知らせ致します。 ○担当：統括管理部 TEL：019-624-1363

第 69 回中小企業団体全国大会開催のご案内

下記日程にて、第 69 回中小企業団体全国大会の開催を予定しておりますので、お知らせ致します。

■ 開催日時 平成 29 年 10 月 26 日（木）

■ 開催場所 キッセイ文化ホール（長野県松本市）

※詳細につきましては、後日改めてお知らせ致します。 ○担当：企画振興部 TEL：019-624-1363

新入職員紹介

平成 29 年 3 月 1 日付で本会に入職した職員をご紹介します。

金子 沙耶香（かねこ さやか）

○所属：統括管理部 ○趣味：旅行、温泉

○最終学歴：中央大学商学部会計学科卒業



岩手県中小企業団体中央会 主要日誌 平成 29 年 2 月分

■岩手県中央会主な実施事業等

- 2/10 いわてキラリ企業・業界プロジェクト
- 2/13 知事を囲む懇談会
- 2/15 組合運営基礎研修会
- 2/16 組合決算・税務講習会
- 2/21 いわて中小企業ビジネス交流フェスタ 2017(～22 日)
- 2/22 スタンプ・ポイントカード研修会
- 2/24 若手経営者連携交流フォーラム
組合自治監査講習会
H28 補正ものづくり補助金審査会
- 2/25 じのもの×スイーツ逸品コンテスト(～26 日)
- 2/27 販路開拓相談会(釜石市)
- 2/28 販路開拓相談会(大船渡市)

■関係機関・団体主催行事への出席等

- 2/3 緑の募金運営協議会

- 2/3 いわてアグリフロンティアスクール評価委員会
- 2/6 いわて企業支援ネットワーク会議
- 2/6 いわて国体盛岡市実行委員会総会、感謝の集い
- 2/7 いわてグローバル人材育成推進協議会設立総会
- 2/8 労働者派遣事業適正運営協力員会議
- 2/9 いわてアグリフロンティアスクール修了式
- 2/10 いわてで働こう推進協議会
中小企業振興基本計画第 2 回外部委員会
- 2/14 いわて海外展開支援コンソーシアム会議
- 2/15 いわて女性の活躍促進連携会議担当者会議
- 2/17 産業雇用安定センター経済団体等情報交流会
- 2/22 岩手地方最低賃金審議会特別小委員会
- 2/23 当道府県中央会事務局代表者会議
- 2/27 岩手県地域訓練協議会